

月刊 田中けん

第4期 vol.12 (通巻44号)

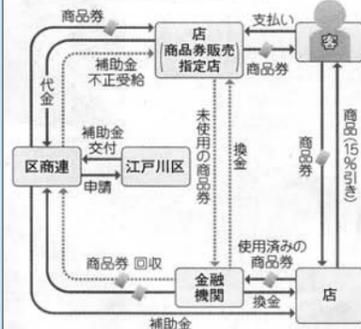


区議会「一人の会」無所属

タバコの煙でお悩みの方は、お気軽にご相談ください。

地域商品券プレミアム化 券販売店不正で 補助金丸もうけ

商品券1000円の流れ
通常 店は1000円の商品を850円で
売り、補助金100円を受け取る
不正 店は何も販売せず、
補助金100円を受け取る



区商連 窓口削減で防止策

このサービスでは、十月の一月間、参
既存の区内共通商品券 加盟店で買
(一枚五百円) を使っ 15%引きとなる。割引は、自己負担の5%
係者から「商品券販売
も使いつらなる」と
制度的見直しには否定
的だ考えを示した。
東京都によると、定
額給付金を受け、ま
ま金融機関に持ち込み
補助金を申請すれば、ま
まプレミアム商品券
補助金が丸もうけにな
るとの指摘が区など
にあった。
区商連も問題を把握
し、六月「区防止策
を決めた。商品券販売
の責任を明確にするた
め、それまで百十二
あった商品券販売指
定店を、各商店街に一
減らし、六十三店とし
て説明している。

江戸川区方式に抜け道

東京都江戸川区の区商店街振興組合(区商連)が、区の補助金を受けて実施して
いる商品券の割引サービスで、「補助金を店側が不正受給できる余地がある」と問題視す
る声が出ている。商品券が未使用か使用済みか見極める仕組みがないため、商品券を販売
する店が未使用の商品券で補助金を請求しても、補助金を受け取れるため。今のところ
不正は発覚していないが、区商連も不正が起きる可能性を認めている。(小野沢健太)

「月刊田中けん」でも紹介した区内商品券の疑惑が、
10月21日の東京新聞朝刊に掲載されました。

目次

- 宮城県登米市北方小学校 1
- 秋田県秋田市旭北小学校 2
- 山形県鶴岡市立朝暘第一小学校 3

文教委員会の視察報告

9月1日から、私が所属する文教委員会による行政視察が始まりました。初日は、宮城県登米市北方(とめしきたかた)小学校に行きました。



北方小学校での授業目標は「考える授業」でした。色々な教科の授業を見せてもらったのですが、特に私が関心を持ったのは社会の授業でした。設問「大名行列が行われるようになったのは、なぜだろうか」

このような課題に対して、色々な予想を子どもたちは発言しました。

- ★買い物★行進★パレード★お出かけ★
- ★大名のことを知らせる★パトロール★
- ★江戸に行く★江戸からどこかへ行く★

色々な意見が出ました。この手の授業は、正に「考える授業」なので、正解を答える以上に、想像力豊かに数多くの回答が出てくることの方が、授業としては成功していると言えます。

正解を簡単に書きます。

大名にとっては、自分たちの力を誇示するための行為。幕府にとっては、大名の財力を削ぐための目的を持つ。

しかし、この授業で正解は関係ないと私は思いました。授業の狙いは子どもたちに自由な発想を養うことにあったからです。私の価値観からすれば、正解があることは授業にとっては邪魔さえあるように思いました。

授業を参観後、私たちは別室に移動し、教務の

責任者である先生に質問をしました。(実際に授業をした先生ではない)

学習目的に沿った「考えさせる授業」とは、子どもたちの自由な発想を養うことにこそ意味があると思います。しかし、今回見せてもらった「大名行列が行われるようになったのは、なぜだろうか」という授業では、そこには明らかに正解が存在するわけで、考えさせる授業と言うよりは、単に知識量を計るだけの授業にならないだろうか、という懸念があります。

また、最後に正解がある設問は、自由奔放に発想した子どもほど正解からほど遠い回答をしてしまいがちです。結果として「間違ってしまった」ことから、本人が恥を感じ、以後その子が消極的になってしまう可能性すらあります。

考えさせる授業が想像力を養うことに主眼を置くなれば、例え正解から大きく外れた誤答を子どもたちが回答したとしても、大人が思いもつかないような、その自由な発想こそ誉めたたえる評価法が、授業の中にあっても良いかと思いますが、いかがでしょうか。

考える授業というテーマはとても良いのですが、一生懸命考えた結果、それが間違いだったとなれば、自由な発想とか、考えると言うことを子どもたちがマイナスに受け止めないか心配です。

一見、「こんなバカな」と思うような発想であっても、その理由を論理立てて説明できてこそ、その誤答を正しく評価できるような教師の力量が試されているのが、むしろ「考える授業」の核心部分ではないでしょうか。

「考える授業」とう発想は良いのですが、それを実際に行うのは、そう簡単なことではないのだと実感させられました。

9月2日の視察2日目。秋田市旭北(きょくほく)小学校の英語の授業にて。

テレビ画面に向かって、子どもたちがじゃんけん遊びをしていました。

グーはRock(ロック)。

チョキはScissors(シザーズ)。

パーはPaper(ペーパー)。

今回、視察をして初めて知ったのが、最近の小学校では、大型テレビが当たり前のように教室に置いてあることでした。テレビをパソコンと直結することで、大型モニターとして授業に活用して

いる現場を見てきました。江戸川区も国の金で全校に大型テレビが配置しているようです。

さて、この大型テレビを使ったじゃんけんゲームです。小学生相手なので、みんな大きな声をあげて、



勝った、負けたと騒ぎながら、楽しく授業を受けていました。英語の授業とはいえ、ほとんど遊び感覚です。

先生「では、お友達同士だけでなく、お客様ともじゃんけんをしてみてください」

私「エッ?(内心)」

先生は授業を視察していた私たち議員も参加して、じゃんけんをするように子どもたちを誘導しました。先生、客いじりがうますぎます。

一人の女の子が私の所に来て、あいさつをしました。

「こんな私ですが、じゃんけんしてもらえますか。よろしくお願いします」

小学生の女の子にお願いされて、断るわけにもいかず、

「こちらこそ、よろしくお願いします」

そう言って、私は最敬礼をしました。そこに別の女の子も入ってきて、3人でじゃんけんをしたのです。

じゃんけんぽん。

「勝った。勝った」

最初に声をかけてくれた女の子一人が勝ちました。勝った女の子は飛び跳ねて喜んで、すぐに別の相手を探すべく他の行ってしまいました。どんなに礼儀正しくても、この喜び様は、さすがに小学生です。

特に低学年相手の授業では、教室がざわざわ騒がしかったり、児童が席を離れ、自由に立ち上が

っていたとしても、教師のコントロールを失っていない授業こそ理想的です。

どんなに児童が真面目で、おとなしく席について私語もせず、黙って授業を聞いたとしても、そんな風景は子どもらしくないし、だいたい視察している側にとっても楽しい授業には見えません。黙って座っているからと言って、子どもたちが楽しく授業を受けているとも限らないのです。

議会もそうですが、少しぐらわざわざしていたり、騒然としていた方が、緊張感も笑いもあって、参加者は議会に注目します。少なくとも、1人の演説が延々と続いて、多くの議員を寝かせてしまうような議会運営よりも、よっぽど「楽しい議会」だと思うのは、私だけでしょうか。

子どもも大人も、その場に好んで参加できる“仕掛け”が必要なのだろうと痛感しました。小学校を視察して、議会運営について考えさせられるとは、面白いモノです。

つきましては、この視察を議会運営に生かすべく、本会議場にも、話を聞いている議員にその演説がわかりやすいようにするためにも、大型テレビを導入してみても、いかがでしょうか。

9月3日の視察3日目。鶴岡市立朝陽(ちょうよう)第一小学校を視察にて。

圧倒的なゆとりある新校舎を見ると、これこそ素晴らしい教育環境だと思い知らされました。子どもたちには、ゆとりある学校空間の中でこそ学んで欲しいものです。

「東京は過密都市。過密は悪い」

私は議員になってから、ずっとこの様に言い続けてきました。

それにも関わらず、江戸川区の人口はずっと増え続けてきたのです。しかも、区長をはじめとして、それを高く評価する人たちばかりで、江戸川区にあって、過密の危機感を持つ政治家は皆無でした。



を高く評価する人たちばかりで、江戸川区にあって、過密の危機感を持つ政治家は皆無でした。

1995年当時、59万人だった江戸川区の人口は、2010年には、68万人になりました。私が議員になってからの15年間で、9万人も人口が増えたことになりました。

単純平均で言えば、実に年6千人ずつ人口が増えてきた計算になるのです。

はたしてこんなに人口が増えて、これで江戸川区民一人一人の生活は質的に向上したのでしょうか。

江戸川区の場合、小学校の敷地面積はざっと8,000m²になります。同じく中学校は、ざっと10,000m²です。

それに比べて、この朝陽第一小学校の敷地面積は、24,000m²。江戸川区の小学校と比べても、実に3倍も違うのです。校長先生の話では、これでも、鶴岡市の中では、狭い小学校なのだそうです。全くもって驚くしかありません。

どんなに東京人が、名目的に収入と財産をたくさん持っていたとしても、金銭的に還元されない「生活の質」という面では、到底地方の生活環境には及ばないという、これはほんの一例です。



ゆとりある学校空間の中で、飛び跳ねて遊んでいる鶴岡の子どもたちを見ていると、江戸川区の子どもたちは、何と狭くて貧しい学校空間の中でしか、遊べないのだろうか、と、嘆かわしくなってきます。

別に私は東京を、江戸川区を、地方と同等の人口密度にしろと言いたいのではないのです。ただ合理性や利便性ばかり追及して、一人一人の生活の質を向上させてこなかったことが、今日の都市部における「学校の敷地面積の狭さ」を作ってしまったことに気がついて欲しいのです。

都市部の子どもたちに窮屈な生活を押しつけている反省に立てば、少しでも地方都市のような、広い空間を都市部であっても手に入れる努力をしてみてもどうかと私は提案します。

少なくとも、より多くの江戸川区民には「過密は悪」ということに、早く気がついて欲しいのです。江戸川区という都市を少しでも、地方都市のようなゆとりある生活空間に近づけるための工夫を今からでも考えていかなければならないと私は考えます。

そのためには、この増えすぎた人口を何とかしたいのです。江戸川区は面積49km²で、人口は68万人です。人口密度は、ほぼ14,000人/km²。これをせめて、1万人/km²ぐらいにまで抑えたい。数字だけではイメージがわからないと思うので、実際に人口密度10,000人/km²の都市名をあげてみます。現在の調布市や小金井市が、丁度、その程度の町並みになります。10,000人/km²でも過密には違いないのですが、高層マンションがそれほど多くない町並みのイメージです。

しかし、そのような目標でさえ、実現しようと思えば、68万人の江戸川区の人口を、これから約20万人も削減しなければなりません。この増えすぎた人口を前にすると、何とも現実的な数字だとは私でさえ思えません。

それでも、「人口が増えることは素晴らしい」という今までの価値観とは全く逆の「過密は悪」という価値観を持たなければ、狭い面積に人口は増えるばかりで、区民1人1人の生活環境は、一向に良くはなりません。

「過密は悪」

「区民一人一人にゆとりある生活環境を提供する」

この2つの価値観をこれからの行政の基本姿勢として改めることができれば、それにあった政策を順次打ち出していくことは可能です。

特定の地域から、人口を意図的に減らすとなると、何か悪いイメージのように聞こえるかも知れませんが、私が言いたいのは、これから百年後までの間、日本の人口がドンドン減っていくというのに、それでも都市部だけの人口が増え続けていくことは、はたして正常な国土利用なのか、という問題意識です。それよりも日本全体を見渡して、集中ではなく、分散型の国土利用を考えれば、都市に集中した人口を、意図的に地方へと移し替えることができるのではないのでしょうか。

私は政策誘導次第では、江戸川区に住んでいる過剰人口の部分に関して、自主的に地方

へと引っ越してもらえるようになると思っています。

私は自分が住んでいる江戸川区の小学生、中学生にも、鶴岡の平均的な小学校ぐらいの敷地面積をもった学校で学んで欲しいと真剣に思うのです。地方と都市における教育環境の格差を目の当たりにして、どれだけ多くの議員たちが、「過密は悪」という価値観を共有してもらえたはわかりません。しかし、江戸川区の子どもたちが、地方の学校よりも狭くて、条件の悪い場所で学んでいることは、嫌でもわかったと思うのです。

よく日本は中国に抜かれて、GDP世界第3位の国になってしまったとの報道があります。でも、日本国民は、この報道をあまり気にする必要はありません。それよりも、これからの日本は、国民1人あたりのGDP世界第1位を目指すような国になって欲しいのです。

江戸川区民と鶴岡市民の所得を比べれば、間違い無く江戸川区民の所得の方が高いはずですが、それでは、江戸川区民は所得に応じて、豊かな生活を過ごしているのでしょうか。小学校の敷地面積が3倍も違い、その狭い学校の中で押し込められて学んでいる江戸川区の小学生たちのことを思えば、私はとても江戸川区民が、鶴岡市民よりも豊かな生活をしているとは思えないのです。

この様に名目的な所得と、実質的な豊かさには、大きなギャップが存在しています。総体を見て一喜一憂するのではなく、これからの江戸川区は、たとえ人口が減ったとしても、区民1人あたりの生活の質的向上は保証できるような行政運営を心がけるべきなのでしょう。



【文教委員会に所属する議員と区執行部職員】

高速道路の無料化

脱官僚・天下りの根絶

人口過密の解消



江戸川区
議会議員

田中けん

自宅事務所 〒132-0021

江戸川区中央4-25-14

☎03-3248-0888 (平日9時~18時)

プロフィール

- 1966年 江戸川区生/松江三中卒 墨田川高校卒 千葉大学教育学部卒
- 1995年4月 江戸川区議会議員選挙 (2789票・41位)当選
- 1999年4月 同選挙 (4282票・16位)当選
- 2001年6月 東京都議会議員選挙 (12394票・8位)落選
- 2003年4月 江戸川区議会議員選挙 (4103票・15位)当選
- 2007年4月 同選挙 (3883票・25位)当選

禁煙地方議員連絡会代表幹事、ホームヘルパー2級、スペイン語を勉強中

www.t-ken.jp